



JAPAN

GENTLEMEN'S QUARTERLY

12 DECEMBER 2011  
NO. 103  
580 YEN

BOOK  
IN BOOK

グローバル  
エグゼクティブのための  
アジア7都市必携ガイド



>ドバイショックは  
嘘だった!?  
クールでリアルな  
ドバイ案内

>ボーイング787に  
見る、新時代の  
フライトスタイル

>ドリュー・バリモアから  
Twitter創業者まで、  
"世界を変える旅"

エグゼクティブよ、  
旅に出よ!

TRAVEL  
SMART

\*COVER STORY

中田英寿

日本の伝統文化をめぐる旅

HIDETOSHI  
NAKATA

HOT WOMAN

>等身大のハリウッドスター  
エマ・ストーンが魅せる  
透き通る白肌セクシー

SPECIAL

>オンラインショッピングの  
常識を覆す  
ギルトの新ビジネスモデル

FASHION

>旅のパートナーにしたい  
最新ラゲージカタログ

SUPPLEMENT

別冊付録  
PETER  
LINDBERGH'S  
PORTOFINO

>ケビン・スペイシー、  
ケイト・ブランシェット、  
マシュー・フォックス、  
真田広之 and more!

ピーター・リンダバーク  
スペシャル写真集



# Creative Power!

## ドバイの未来を作るクリエイティブ・ピープル

豊かなアラブ文化をもちつつも、国としてはまだ歴史の浅いUAE。  
今そこに、クリエイティブな動きが大きく成長を始めている。  
その最前線で活躍する、若き3人のキーパーソンたち。

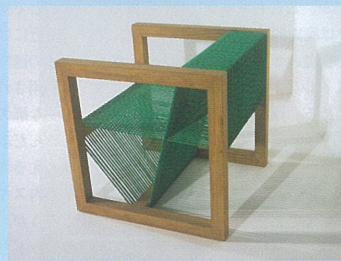


**Khalid Shafar**  
カリッド・シャファー  
家具デザイナー

1980年ドバイ生まれ。大学でデザインを学び、卒業後マーケティング会社へ。2009年に退職し、ニュージーランドに留学。自身のデザイン事務所を立ち上げる。この秋に東京デザイナーズウィークに出展予定。

写真右はアラブの人々が砂漠を旅していた時代から愛されているボードゲーム「carrom」をモダンにデザイン。左は強度のある紐を何重にも巻いて作りあげた椅子。角度によって幻想的な表情に。

<http://www.khalidshafar.co.nz/>



## ゼロから築くドバイのデザインシーン

カリッド・シャファーの前の職場は、ドバイの大手マーケティング会社。CEOまで務めていたが、2009年、突然の転職を果たして大きな話題を集めた。「大学を卒業した当時、ドバイにはデザインシーンはほとんど存在しておらず、デザイン系の職業にはまったく就けなかったんです。それでマーケティング会社に務めたけれど、デザインをしたいという思いが変わることはなかった」。一念発起して退職後、ニュージーランドでものづくりを学び、デザイナーの道を歩み始める。オフィスの裏の工場に置かれた、試作段階のプロダクトたち。そのデザインは、アラブの女性たちが受け継いできた、籐のような編み細工をトップにあしらったテーブルなど、アラブのエッセ

ンスを取り入れたものだ。「イスラム圏やアラビア語圏の文化といえ、なんとなくイメージはわくけれど、ドバイ文化といわれても分からないでしょうか？ それは僕たちも同じ。この国はまだ歴史が浅く、独自の文化が定義されていないんです。例えば日本や中国には、長い歴史と国固有の豊かな文化が成立している。そういうものに惹かれます。今では、海外で学ぶ人も多し、文化も少しずつ変わってきている。祖母の世代から受け継がれた、しかし失われつつある固有の文化を現代的に解釈し、発信することが自分の使命だと語るカリッド。この秋には、東京やベルリンで作品を披露するという。「ドバイのデザイン」を彼が世界に問う日は遠くなさそうだ。

ドバイ・ミュージアム●紀元前からの郷土品や昔の人々の生活様式などを展示する博物館。建物はかつてドバイの首長の住居として使われていたものを改装している。



favorite!

Motivate Publishing

東京デザイナーズウィークへ!

今回、ドバイの頼もしいナビゲーターとなってくれたラッド&アフメッド兄弟が、「BROWNBOOK」を引っ掛けて、11月1日からの東京デザイナーズウィークに出展する。加えて、カリッド・シャファー氏、カイス・セドキ氏も参加。東京で、ドバイの「今」を実感できるチャンスだ。

GQ JAPAN 88